March 2020

千里地理通信

木庭元晴教授古稀退職記念特別号

関西大学地理学研究会会報　第 82 号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

Contents

Page 1 ・・・・・・・・・・・・・
人生喪失をもたらす収納沼　木庭元晴
Page 2 ～ 3 ・・・・・・・・・
履歴，研究業績と小文
Page 4 ～ 6 ・・・・・・・・・・
教員から
時を刻む径行の地球科学者　野間晴雄
木庭先生と交流させていただいた 1 年間から　土屋　純
木庭先生との色々な思い出　松井幸一
知れば知るほど好きになっていった木庭先生　伊東　理
Page 7 ～ 15 ・・・・・・・・
教え子から
最後の現役恩師へ送別の辞　三木理史
我が恩師　岩田央之
木庭先生から頂いた学恩　岡久友香
私の原動力　～「カッコいい大人」の教え～　中村慎一
木庭先生退職の思い出　前田陽介
十数年後に芽生えたタネ　山本政一郎
年賀状のやり取り　生地泰明
木庭先生との思い出　森本英揮
木庭先生ご退職によせて　山崎美佳
北極星を見上げて　松井幸枝
木庭先生との思い出　鈴木夏姫
一周まわって大感謝　相澤なつ乃
木庭先生との想い出　青木のぞみ
木庭先生へ　久保美佳
忖度なしの愛される性格　西田みづき
木庭先生のお言葉　中井　蒼
木庭先生　中野さくら
木庭先生からの一言　二木裕太
学問に誠実であること　桑名友太
木庭先生との思い出　辻本真由
ワシて同ぜず　中井香月
「何回驚かされたんやったっけ…」　松川昭太朗
木庭先生からの学びを振り返って　松原太陽
木庭先生へ　三好拓也
木庭先生の思い出　安田えり
木庭元晴先生との思い出　齋藤鮎子
Page 16 ・・・・・・・・・・・・
秋の日帰り巡検報告
京田辺市と井手町周辺を歩く　奥田依吏子
Page 17 ・・・・・・・・・・・
実習調査報告
長野県軽井沢町での実習調査　松井幸一
Page 18 ・・・・・・・・・・・・
地理学教室 50 周年記念式典の実施
Page 19 ・・・・・・・・・・・・
教室だより
Page 20 ・・・・・・・・・・・・
随想
人間万事塞翁が馬　由水千景
Page 16 ～ 18 ・・・・・・・・
卒業生・修了生からのひと言

人生喪失をもたらす収納沼

木庭　元晴

母は高田浩吉や美空ひばりなどの東映時代劇が好きで近所の松竹映画館によく出かけた。父が数ヶ月単位の長期出張の時なんぞは映画が変わる度に出かけるという始末。僕は時代劇で人が殺されるのが嫌で映画館の前で入るのに激しく抵抗した。母が拝むように頼むし，館内の売店でお菓子を買って貰えるのもあって，仕方なく後ろ向きに座って耳を塞いだ。そういう体験が肯定的に影響したのだろう。僕は近所の子供たちと弟を連れて日曜日には日活映画館によく出かけた。基本は怪獣ものや東映アニメだけれども三本立てで，日活映画館故だろうけど，吉永小百合と浜田光夫の青春ものや小林旭と先日亡くなった宍戸錠のヤクザ映画などをよく見た。浜田光夫は心が弱くて何かと捻くれて，純情で頑張り屋さんの吉永小百合扮する恋人が健気に支える。三本を見ないと帰れない，損した気がするという何とさもしい根性で，耐えた。それに対して，小林旭と宍戸錠には痺れた。いずれが早撃ちか，弟などと論じたものである。宍戸錠は 0.3 秒。どうも小林旭はその上を行くらしい，てな調子で。

父は捨てられない人で朝日新聞なども溜まる一方，ラップ用紙として家族が使うことも禁じられていたので新聞の山は積み上がる一方。朝日ジャーナルという週刊誌なども山積みになってゆく。母は捨てる人なので，父が稀に気づいて「あれはどこ行ったあ」，などと怒鳴る。母の言動を受けて，ぼくは父の性癖は理解できないと思っていたが，ぼくも父に似たらしい。集めるのが結構好き。捨てない。整頓して段ボール箱や本箱に整頓して収納すると安心してしまい，二度と開けない。旧第 1 学舎 1 号館の解体を契機に 4 号館に地理学実験室に移動してからは，院生（当時は佐藤ふみさんと影山陽子さん）の実験指導を重視して実験室が根城となった。今はフランスの吹奏楽団でチューバを吹く水上洋子さんが旧第 1 学舎地理学実習室で寂しく作業していたことを後に知って指導できなかったことを後悔したことも原因である。4 号館の実験室に居着いてからは，個人研究室には年に数度しか入らない。文献や買い溜めした文具なども放置状態。研究テーマすら変わって行く。

2019 年 11 月

ぼくが関大に来た時には実験設備はなかった。幸い，恒温乾燥器に始まって，実体顕微鏡，ドラフトチャンバー，X 線回折装置，液体シンチレーション法による放射性炭素年代測定関連の実験回路，Quantulus 超低バックグラウンド液体シンチレーションカウンター，IsoPrime 同位体比用質量分光器と燃焼回路などを導入できた。もちろんこれだけでは研究はできず，他の機器使用については関西大学工学部化学工学科，土木学科，電気工学科の先生方のお手を煩わせた。大阪府熊取町の京都大学原子炉実験所，鳥取県三朝町の地球内部研究所，山口県宇部市の山口大学短期大学部池谷研究室，大阪大学産業総合研究所，などでも頻繁にお世話なった。振り返ると，心の寛い先生方との出会いがあった。改めて快く受け入れて頂いた先生方には頭が下がる。この過程でいつも貝柄君が居た。

とはいえ，学会発表は積極的にするがそれで満たされてペーパー出力せずに，次のテーマに走ってしまう。データの山を廃棄する際には，出力しなかったという残念無念の思いが湧き出て，フラストレーションも貯まるし，心がやられる。撤退期限に追われて，時間もかかるが，心が続かない。月刊誌などのジャーナル類は古本屋が全く引き受けないということと，ほとんどの科学ジャーナルは，インターネット上のデータベースで取得可能なので，思い切って捨てられる。父は宗教家であるが科学への関心が

高く，まさにディレッタント的側面を持つ人であった。父の第四紀研究，地質学雑誌，地球科学を受け継いでいるので第1号から持っていたが，それも全て捨てたか，その途上にある。本については古本屋に幾つか電話して，やっと1月29日に来て貰った。持って行ってくれると考えた本の半分ほどだろうか。古本屋さんが分かれる時に，「ラベルがついていたりする本があるので…」と始まったので，「お金は要りません」と宣言したら，平身低頭して帰られた。ぼくが放置してきた本が社会で再利用され得たらと思う。

自分で見ても片付けが全然進んでいない。ぼくの性格をご承知の考古学教室の米田文孝先生には撤去作業だけで，1月末にもう3回来て頂いた。まずは玄関先のマップケース2段組1個，ロッカー撤去。次は別のマップケース2段組1個。入試直前の1月31日には4名で，大きな衝立になっていた書棚と長机，そして奥のスティール書棚3個も撤去頂いた。その際，ぼくのように，一つ一つ見て捨てる捨てないをしていたら「到底間に合いませんよー」とお叱りを受け，わかっちゃ居るけど，「目から鱗」で，方針をちょっと変えようとは思っている。長野県松本市から次男ファミリーが顔見せに来るので，2月18日の一日だけ，2トントラック（トヨタダイナ2tロングパワーゲート付き）を借りて，個研のものだけでも亀岡の湯ノ花温泉そばの父の「研究所」に運び込むつもりである。

例えば，いまハワイ研究の論文を整理しているが，精力的に回って優れた多くの研究者と会って抜き刷りなどを多数頂いていたことに驚いている。さらに，ハワイ大学の図書館やホノルル市議会などから借りだしては，アラモアナだったかのキンコーズでコピー＆製本した。その量もなかなかのものであるが，結局帰国して，一度も見ていない。そのままであった。今後見るのか見ないのかで，捨てる捨てないを未だにしている。

大学院時代から文献の整理には工夫をしてきた。梅棹忠夫の京大カードB6には文献書誌とその内容という形で1枚1枚整理したし，厚くて固い紙でA4縦が余裕を持って入る箱をまとめて注文して，著者別またはテーマ別に文献を整理した。その数はどんどん膨らんで行く。こうして整理した文献は，博士論文やペーパーを作成するために利用したものを除いて，ほとんど入れて置くだけになっていた。京大カードはmacを使い出してからデータベースソフトFilemakerに変わったのであるが作成に要した時間に比べると徒労に近い。

ただ溜め込むという父の血はどうも豊かな研究をするには災いであった。何となく格好良い研究手法に憧れて滅多矢鱈に文献を収集するだけというのは，高田浩吉に痺れるような母の血から来ているようだ。結局，両親を越えることはできなかった。とはいえ，良い面も受け継いでいる筈だから，もう少し研究したいとは思っている。

（こば　もとはる：本学名誉教授）

履　歴

木庭　元晴（こば　もとはる）
生年月日：1949（昭和24）年4月3日
専門分野：自然地理学・地形学・地球科学
現住所：〒562-0027　大阪府箕面市石丸3-7-E304

学　歴

1965. 4. 1（入学）～ 1968. 3. 31（卒業）
京都府立亀岡高等学校普通科
1969 4. 1（入学）～ 1973. 3. 31（卒業）
鹿児島大学法文学部文学科・人文地理学専攻
1974. 4. 1（入学）～ 1976. 31（修了）
東北大学大学院理学研究科博士課程前期課程，地学（地理学）専攻
1976. 4. 1（入学）～ 1979. 3. 31（退学）
東北大学大学院理学研究科・博士課程後期課程，地学（地理学）専攻
1979. 10. 2　同　修了

職　歴

1979. 4. 1 ～ 1979. 12. 31　日本学術振興会奨励研究員（東北大学）
1980. 1. 1 ～ 1982. 9. 30　国立有明工業高等専門学校（一般科）専任講師
1982. 10. 1 ～ 1984. 3. 31　同　助教授
1984. 4. 1 ～ 1991. 3. 31　関西大学助教授（文学部）
1991. 4. 1 ～ 2017. 3. 31　関西大学教授（文学部）
2017. 4. 1 ～ 2020. 3. 31　関西大学特別契約教授

学　位

1978. 3. 25　東北大学（理学修士）「琉球列島中部地域のサンゴ礁地形」
2006. 3. 31　東北大学（理学博士）「琉球列島の第四紀サンゴ礁」

受　賞

1981. 7. 2　朝日学術奨励金（朝日新聞社）「電子スピン共鳴（ESR）年代測定法の確立」（池谷元伺氏らと）

所属学会

日本地理学会，日本第四紀学会，東京地学協会，地学団体研究会，東北地理学会，地理科学学会，人文地理学会，関西大学史学地理学会（会長），すいた市民環境会議，茨木自然保護研究会，日本タニハ文化研究所（代表）

在外研究

1996. 4. 1 ～ 1997. 3. 31　関西大学在外研究（学術研究員）アメリカ合衆国ハワイ州イーストウェストセンター
2009. 9. 19 ～ 2010. 3. 31　関西大学在外研究（調査研究員）ニュージーランド・オーストラリアに滞在

非常勤講師歴

九州大学文学部，東北大学国際文化研究科

主たる海外での調査研究

インドネシア，チリ，台湾，インド，アメリカ合衆国，オーストラリア，ニュージーランド

主要研究業績と小文

〈単書〉

飛鳥藤原京の山河意匠―地形幾何学の視点―，関西大学出版部，2011，全360頁.
序　推理から確証へ，第1章　最近公開されたGISデータベース情報を使って得られた飛鳥及びその周辺の古代　～更新世末期の自然環境，第2章　飛鳥時代推古朝による天の北極及び暦数の獲得，第3章　天香具山山頂を通過する天の北極軸を基軸とする古代飛鳥寺域と水落遺跡の飛鳥川争奪前後の占地，第4章　飛鳥時代の水落天文台遺跡から観測された天球，第5章　飛鳥時代斉明期の高取川見瀬付け替え，第6章 藤原京の占地根拠となる大和三山の太極の発見，結 そして飛鳥京の寺院等遺跡から得られた太極由来の中ツ道軸と天香具山軸との共存

〈編著〉

『宇宙 地球 地震と火山』古今書院，2006，2007（増補）.
『地球環境問題の基礎と社会活動』古今書院，2009.
『地震と火山のメカニズム（災害を科学する1）』古今書院
『東日本大震災と災害周辺科学（災害を科学する2）』古今書院，2014.

〈監修〉

木庭次守編『霊界物語ガイドブック』八幡書店，2010.

〈分担執筆〉

宝島・小宝島から得られた完新世後期サンゴ礁の成長速度と第四紀後期の海水準変動（斎藤毅編著『トカラ列島　その自然と文化』古今書院，1980，中田高共著）
海進過程のサンゴ礁形成（『西村嘉助先生退官記念地理学論文集』古今書院，1980.）
ダーウィンとサンゴ礁（太平洋フォーラム編『生きている太平洋』神戸新聞出版センター，1987.）
琉球列島第四紀のサンゴ礁形成と島弧変動（サンゴ礁地域グループ編『熱い自然―サンゴ礁の環境誌』古今書院，1990.）
地質，地形，植生（『新修茨木市史 第1巻』茨木市，2012.）

〈学術論文〉

喜界島南部の砂丘について，鹿児島地理学会紀要20（1），1972（斎藤毅，川口昇，木庭元晴）.
沖永良部島の海岸地形と沖積世高位海水準，東北地理26，1974.
Distribution and environment of Recent Cycloclypeus. *Sci. Rep. Tohoku University*, *7th Ser.*, Vol. 28, 1978.
房総半島南部の完新世海成段丘と地殻変動，地理学評論53，1980.（中田高，木庭元晴，今泉俊文ほか）
琉球層群と海岸段丘，第四紀研究，18，1980.
琉球列島，沖永良部島の完新世後期の高位海水準とその14C年代，第四紀研究，19，1980（木庭元晴，小元久仁夫，高橋達郎）
Late Holocene eustatic sea-level changes deduced from geomorphological features and their C-14 dates in the Ryukyu Islands, Japan. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*（Elsevier）, Vol. 39, 1982.（Koba, M., Nakata, T. and Takahashi, T.）
喜界島・石垣島などの更新世サンゴ礁石灰岩のESR（電子スピン共鳴）年代，史泉，63，1986.（木庭元晴，池谷元伺ほか）
琉球弧西端，与那国島の海岸段丘とその年代．月刊地球，9（3），1987.（木庭元晴，貝柄徹，池谷元伺ほか）
墾丁國家公園地区的珊瑚礁定年及地形研究，中華民国内政部営建署墾丁國家公園管理處保育研究報告57，1989（木庭元晴，貝柄徹）
北大東島産サンゴ化石のESR年代とその検討，地学雑誌，100（3），1991.（木庭元晴，田村誠，貝柄徹ほか）
Influx of Kuroshio Current into the Okinawa Trough and inauguration of Quaternary coral-reef building in the Ryukyu island arc, Japan., Daiyonki Kenkyu（the Quaternary Research）, 31（5）, 1992.
関西大学のベンゼン一液体シンチレーション法による放射性炭素年代測定法，関西大学博物館紀要，5，199（網干善教，木庭元晴，小元久仁夫，米田文孝ほか共著）
大阪府に見られる二三の無層理層の堆積環境―X線撮像とレーザー回折粒度分析から―，関西大学博物館紀要，13，2007.（木庭元晴，白澤武蔵，千葉太朗，影山陽子，佐藤ふみ）
欧米にみられる酸性雨の分布特性とその対策，関西大學文學論集，61（1），2011.
千葉県浦安市で特徴的に見られた東北地方太平洋沖地震液状化災害，関西大學文學論集，63（1），2013.

〈その他（国土庁国土調査）〉

「土地分類（地形分類）基本調査」沖縄本島，周辺離島，石垣，宮古などの地形分類分担，1983~92.

〈学会特別発表〉

飛鳥藤原京に隠された天香具山軸と大和三山太極の都市2軸モデル，2019年人文地理学会大会（関西大学），2019.11.17.

〈エッセー〉

『千里地理通信』，関西大学地理学研究会
1988：西暦2100年には海面が2m上昇する（20号）
1990：ロマン地理ズムの終焉（22号）
1990：立派な研究者というものは（23号）
1993：もり・こもり・やもりの矢守ゼミ（28号）
1994：南海のサンゴ礁の憂鬱（30号）
1997：ようこそ，年代測定器のハイブリッド―地理学実験室の充実―（36号）
1999：柿ピー（40号）
2000：時ドッキリ（42号）
2002：憂鬱なるGIS（47号）
2004：インドヒンドスタン平原の煉瓦はレス起源（51号）
2006：地（理・学）の再生にむけて（54号）
2008：地球温暖化傍観（58号）
2009：教室の立役者去る（60号）
2011：きな臭い地球温暖化現象（61号）
2013：あの日わたしは（63号）
2014：奈良のシティボーイ（71号）
2015：いま関大地理の画期か（75号）
2018：模倣から自己表現への陥穽（78号）
2019：いとしさ（80号）
2020：人生喪失をもたらす収納沼（81号）
『書評』関西大学生協
福島第一原発事故三年後の果樹農家被曝評価とその軽減のための対策，No.142，2014.
チェルノブイリ事故直後に書かれた『みえない雲』からのメッセージを受けとることのできる人々，No.144，2015.

時を刻む径行の地球科学者

野間　晴雄

木庭先生は口丹波の亀岡盆地で昭和24（1949）年4月に生を享ける。「団塊の世代」のまっただなかである。その苗字は九州に多い焼畑・切替畑に由来する。父は熊本市の生まれである。1年浪人して鹿児島大学法文学部で人文地理学を専攻するが，もともと理学部指向であった。「在学中に平和運動に参加し，芋焼酎を飲みながら社会科学と哲学を読みあさった。卒業後は社会活動の道を漠然と考えていたが，何ら力を持たないことに気づきサンゴ礁研究の道を選ぶ」（関西大学『先生の横顔2018』）。卒業論文は沖永良部島のサンゴ礁地形である。

私事にわたるが，私も卒論のフィールドが沖永良部島である（この島特産の鉄砲ユリの栽培化を扱った）。1976年3月，夜行列車「明星」に乗って，私は全く面識の無かった鹿児島大学教育学部の斎藤毅先生の研究室を訪問した。C. サウアーに憧れ，亜熱帯の植物と人間の関係を鹿児島の離島でやりたいと漠然と思っていただけで，テーマはまったく決まっていなかった。先生は鎌倉出身で，軽妙な語り口でぽんぽんとアイディアを出され，一日で栄養体繁殖をするユリに対象が決まった。さらに吐喇列島中之島での8月の学生実習調査へも誘っていただいた。そのとき，「宝島の北限のサンゴ礁地形を調べた卒業生のコバ君が現在東北大学大学院に進学し，世界を漫遊してきたイクタ君は大阪市立大学大学院で活躍している」と次々と知らない名前を出された。二人とも教育学部の地理専攻生ではなく，法文学部の学生であった。先生の包容力と親しみの笑顔には本当に救われた。このコバ君が木庭先生，イクタ君が立命館大学の生田真人氏である。星砂，イノー（礁間帯），ビーチロックなど生物が関わる地形は，私の生態的思考にも重要な契機となった。

仙台にある東北大学の地質学古生物学講座は1911年，東北帝国大学理科大学創設ともに設立された日本で二番目に古い教室である。伝統的に南洋の海や海底地形，島嶼とかかわり，海軍省やその外局の水路部（戦後の海上保安庁水路部），国の「南進論」とも親和的だった。明神礁で殉職した田山利三郎はこの教室を出て勤務した南洋庁で畢生の大著『南洋群島の珊瑚礁』（1952）を11年のフィールドワークで完成させた。日本学術振興会によって1934年にパラオ・コロール島に設立されたパラオ熱帯生物研究所は日本における共同利用研究施設の走りで，珊瑚礁を中心とする熱帯生物研究では世界的な水準を誇った。ここの標本が東北大学に収められていたことも，木庭先生が東北大学大学院でサンゴ礁地形研究を進めることになった一つの理由という。

木庭流のフィールドワーク特色は実験室での試料分析との往復運動にある。「研究者のユートピア」（坂野徹『帝国を調べる―植民地フィールドワークの科学史』2016）といわれたパラオ研の手法のDNAを引き継いでいる。学位論文をまとめた「琉球層群と海岸段丘」（第四紀研究，18，1980）のような広域の琉球層群や段丘の対比，地史の整理もあるが，本領は自ら採取した試料の絶対年代の測定である。ESR（電子スピン共鳴法）法や放射性炭素年代測定法を自ら実験室で行うことである。

私立大学の文学部でこれを実践するには，外部資金を獲得しての機器購入とマンパワーが必須である。前者は関西大学博物館の核である考古学研究室の網干善教・米田文孝教授らの科学研究費や学内研究費で，後者は地理学のみならず考古学の卒論や修論での指導データを活用された。

長時間の実験室での計測分析は，易きに流れる現代の学生気質とは相容れないことも多い。またどれだけ学生がその原理や意義を理解して動いているのかも未知数である。それでも先生は手抜きをせずに指導された。そのため途中で落ちこぼれも出るし，ゼミから遠のく学生も少なからずいた。その一方で，こつこつ試料を分析し，GISを駆使して学会発表できるまでのレベルを達成した卒業生もいる。貝柄徹氏（大手前大学）はインドネシア，台湾など海外の調査にも同行していっしょに試料を分析し計測手法を開発した同志，別所秀高，辻康男の両人は沖積平野の地形発達史で木庭スクールを引き継いだ強者（つわもの）だ。

自然地理学の理学的手法を標榜する先生の後半生は，地球科学（＝地学）という，より上位の領野での火山災害，水害，酸性雨，地球温暖化などにも関心が拡がっていった。そこに決定的パンチを食らわしたのが2011年の東日本大震災である。学内で共通教養教育のリレー講義を主宰し（その教科書が『東日本大震災と災害周辺科学』2014），原子力発電の危うさと，3.11以降の再稼働へ警鐘を鳴らし続けている。若き日の社会変革への熱き思いが，再びとむらむらと湧きおこってきたのだろう。

「時を刻む」指向は晩年，飛鳥藤原京の河道変遷や大和三山の立地，古代都市プランにまで及ぶ。国の高精度地形標高データの整備を背景に，地形幾何学の観点からの単著は，結論は明解だが考証プロセスは難解である。後年，評価されるのか，無視されるのかいまは未知数である。しかし意表を突く書であることは確かだ。

木庭先生の父，次守氏は大本教教組の出口王仁三郎を慕って熊本師範学校を中退して亀岡に移り住んだ懐刀・知恵袋で，大本教第二次弾圧事件の際の弁護資料作成にあたった宗教人である。先生はその遺品を整理し，毎年供養祭を執り行い，教組口述筆記の根本経典の解説書『霊界物語ガイドブック』2010）の復刻を監修している。地球の歴史に強い関心を示し，日本博物館協会，日本地質学会，日本第四紀学会会員でもあった父君の生き様や大本教の宗旨が，木庭先生の学問や人生観に大きく投影していると思うのは私だけではないだろう。

（のま　はるお：本学教授）

■ □教員から□ ■

木庭先生と交流させていただいた１年間から　土屋　純

私は2019年度より関西大学に赴任したので，木庭先生とご一緒に仕事をさせていただいたのは1年間のみである。短い期間であるが，お仕事などで木庭先生と交流させていただいた1年の経験から，木庭先生のお人柄などについて書かせていただきたい。

関西大学に赴任前，木庭先生と面識がなく，どのような先生なのかインターネットで下調べした。サンゴ礁などを対象とした幅広い自然地理学の研究だけでなく，飛鳥藤原京の自然環境の復原など人文地理学的な要素を含む研究もなされているとても幅広い先生だと推察していた。

赴任してからは授業等でお仕事をご一緒させていただく機会があったので，私が感じ取れた先生のお人柄などについてご紹介したい。第一に自然科学の研究者としての思考が卓越されていることである。考え方が極めて理論整然とし，含みを持たせて結論を導くことを極力さけていらっしゃるのではないか。そして先生の指導は，事実や根拠に基づいたものであると思われる。私が思いつきでお話ししたことに対し，それは何を根拠としているのかと確認されることがあり，研究者としてのスタンスを感じることができた。

第二に，見込みのある学生に対してあえて厳しい指導やコメントをなされることである。初めて参加した2019年度の卒論中間報告会での先生のコメントはとても印象深かった。日本では叱咤激励による教育から褒めて伸ばす型の教育への転換が進んでいるが，木庭先生は叱咤激励型であると思われる。しかし時代の変化にも対応されていて，一部の学生には褒めて伸ばす方式を用い，柔軟な教育を展開されていた。

木庭先生について学生からの評判を聞くことがあったが，以前と比べて人間らしくなった，角が取れて丸くなったという。学生たちが若かりし頃の先生をどれだけ知っていたのか不明ではあるが，授業の中で学問的，理論的な内容については厳密に教育されていたことから，学生たちはとても厳しい印象が強いようだ。しかし，ふと現される笑顔を見ると学生たちはほっとしているようだ。

最後に，ちょっとした木庭先生とのご縁について説明させていただきたい。前任校の宮城学院女子大学は学校法人宮城学院の1つの学校であり，他に宮城学院中学校・高等学校がある。中高の地理教員として高橋拓也先生が在籍されている。同じく地理学を大学で専攻したこともあり，年齢もほぼ同じであったので交流させていただくことがあった。宮城学院女子大学を退職する際に高橋先生にご挨拶したが，高橋先生のお父様は元岡山大学教授の高橋達郎先生であり，木庭先生とは長年共同研究でサンゴ礁の研究をされていたことを聞くことができた。そして，関西大学に赴任して木庭先生に高橋先生親子のお話をすると，木庭先生は高橋達郎先生がお亡くなりになった際にはご自宅でお線香を挙げられたことをお聞きすることができた。世の中は狭いと感じるとともに，赴任前から木庭先生とはつながりが私を関西大学に導いてくれたのではないかと考えている。

（つちや　じゅん：本学教授）

■ □教員から□ ■

木庭先生との色々な思い出　松井　幸一

私が学部生から現在までの思い出を書いてみたい。私が木庭先生と出会ったのは学部の2回生で地理学の授業を取り始めた頃である。地理学研究法の授業で空中写真判読をしたことを今でもよく覚えている。私は空中判読が苦手でなかなか地形判読ができずに苦労した。サンゴの生態についての自然地理学の授業を受けたが，試験は記述問題で私には難しかった記憶がある。木庭先生の授業は苦労しながら単位を取ったのだと改めて思う。

学部生の頃はゼミの所属も異なり，また私自身が真面目に大学に通っておらず，授業が難しかった程度の記憶しか残っていない。その後，大学院に入学し千里地理通信編集を担当し，各種行事に参加するなかで木庭先生と話す機会も格段に多くなった。この頃には木庭先生の人となりも少しずつわかるようになってきたように思う。

私が感じる先生の素晴らしい点は，何事においても非常に筋が通っており，判断がわかりやすく明確な点である。例えば，私が院生時代に『千里地理通信』を担当した時期には，会費の納入者も多く，繰越金が毎年出る状態であった。そのため会費自体を下げる話しになり，いくらに設定するかという相談になった。先生は次年度への繰越金が出ない状態にまで下げ，不足するようになったらまた改めればよいと言われた。その結果，会費を大きく下げ，会計上も非常にすっきりし担当としても助かった。私の中では，『千里地理通信』の考え方として現在まで続く一つの筋道をつけた出来事であった。

また博士課程後期課程になると，木庭先生の指摘の中には本質的なものがあるとやっと気づけるようになった。院生合同の中間発表では研究の不備な点を鋭く指摘されたが，前期課程の時にはその指摘を流してしまう，もしくはその意味を理解できなかった。ただ後期課程になる頃には，先生が何を指摘しているのかを自分なりに理解し，それを活かすこともできるようになったと思う。人文的な点にばかり目が向く私の研究を，もっと大きな視点から捉え，フラットな状態に戻してくれるのが木庭先生であった。

卒業後，地理学教室に着任して一緒に働くようになっても木庭先生は変わらぬ姿勢で接してくれる。教室内の仕事でもはっきりと筋を通し，時には厳しくも優しい先生である。私自身が右に左にふらふらする事が多い性格なだけに，あらためてこの自分の筋を通すという事を曲げずにここまで勤め上げた先生は素晴らしいと思う。

私が学部に入学した時期には想像もしなかったが，ついに木庭先生も退職という時期になってしまった。昨年の伊東先生退職と同様にこれから地理学教室は大きく変わっていくため頑張らねばと思いつつ，寂しく何か私自身にぽっかりと穴が空いたような気持ちになる。幸い先生のよく行くスターバックスは私の自宅と近く，ぜひ木庭先生と今後もお会いできるのを楽しみにしている。

（まつい　こういち：本学准教授）

知れば知るほど好きになっていった木庭先生

伊東　理

私は木庭先生よりも1学年下で，本来なら木庭先生のご退職をお祝いして，お送りすべき立場でしたが，昨年退職させてもらいました。何とも申し訳ない気がしますので，異例ですが木庭先生について書かせて頂くことにいたします。

木庭先生に始めてお会いしたのは，関西大学に着任させていただいた1998年4月5日頃でした。先生に対する最初の印象は「勝手な人」でした。というのは，「木庭先生のおかげで，私は4月になっても研究室に入れなかったのに」，木庭先生からは何の一言もなかったのには納得できませんでした（私の誤解もありましたが，顛末は「千里地理通信」80号をご参照ください）。

また，同年の秋には「厳しい人」との印象も受けました。それは高橋，木庭，伊東で担当した「実習調査報告書」に関する先生の注文にありました。当時の実習調査は班ごとに授業外で調査原稿を作成し，それを教員がチェックして最終原稿にしていました。木庭先生がある日突然研究室に来られ，「2週間後までに原稿を集めて添削，完成し，木庭まで持ってきてください。ついでに高橋先生担当班も一緒に頼みます（高橋先生急病で入院のため）」でした。計4班分の学生の執筆指導と原稿の添削でふらふらになりましたが，何とか期日までに木庭先生に提出。その際に，「先生ご担当（1班分）の原稿はお済みですか」とお聞きしたところ，「検討中です。なかなか進みませんね」，と平然と言われました。「なんと，自分には甘く，人には厳しい人だ！」と立腹しました。

このような関大1年目の強烈な出会いと無茶な要求を乗り越えてからは，私も少々反撃に出ることにしましたが，実際には木庭先生を知れば知るほど好きになっていきました。というのは，木庭先生，私には到底まねできない長所をお持ちのお方であることが，次第に判ってきたからです。木庭先生は自分のペース，思想・生き方，…，などをしっかりとお持ちで，それらを懸命に通したいという純粋で正直なお人なのです。加えて，自分の考えをめったにはっきりと説明されないので，私には「勝手な人」に見えてしまったのです。実際に先生の主張や行動が他人に迷惑や影響を及ぶことになることを理解された時には，自分のお考えを潔く妥協していただいたり，時には見事に諦めてもらったことも多数ございました。

一方，自分の範囲内で完結できることには，一切妥協されません。例えば学会発表の準備で頻繁に徹夜されてきたこと，一旦引き受けられた仕事はどんな仕事でも粘り強く最善を尽くされることなど，ご自身に対して「厳しい人」なのです。木庭先生はいつも締め切り間際まで必死に頑張って，窮地をクリアーされてきたお人なのです。また，先生の健康維持のための日頃のご努力には感心します。

人生，余裕をもって生きたいなどと居直って，諦めることや中途半端な仕事に終ることも少なくない私からみれば，木庭先生は尊敬すべき立派なお方なのです。先生のお人柄や生き方を知るにつれて，私はどんどんと木庭先生を好きになっていったのです。さらに最近では，木庭先生の考え方や生き方は，案外，いや間違いなく，心底で私と一致しているところも多いのではないか，と思うようになってきました。

話は変わりますが，木庭先生，大変学生好きな人です。そのため，いい加減な学生も含めて，一生懸命教育しようと頑張られるお姿もみてきました。数年前に木庭先生が「近頃は，学生が益々可愛らしくて，しょうがなくなったわ」とおっしゃったこと，印象深く覚えています。「結構厳しいことを言う先生ですが，最後まで面倒みてくださる信頼できる先生」，「最後は助けてくれる先生」として木庭先生を慕う学生も少なくありません。

地理学教室で歴代2位の勤務年数を数える木庭先生，長い間ご苦労様でした。また，先生には今まで随分とお世話になりました。有難うございます。いつまでもお元気で，お過ごしください。そして，時々は先生にお会いして，ご一緒に楽しみたいと願っています。今後ともよろしくお願い致します。

（いとう　おさむ：本学名誉教授）

■ □教え子から□ ■

最後の現役恩師へ送別の辞

三木　理史

木庭先生と私は光栄にも関大で同期です。先生は私の入学した1984年に有明高専から着任されました。当時の地理学教室は最年長の河野先生から橋本先生まで，1年次生の私とは27～45歳も年齢の離れた長老大家揃いで，16歳差の先生は最も身近に感じる存在でした。その先生に送別の一文を認める日が来たとは，にわかに信じ難い気もしますが，おまけに当時教えを受けた非常勤講師も長老の先生が多く，おそらく先生は私が直接教えを受けた最後の現役恩師になるはずです。

現在本務校で日々接している学生の多くとも32～35歳差であることに改めて愕然としますが，思えば木庭先生と私はその半分以下しか離れていません。一風変わったエピソードに事欠かない先生ですので，そのあたりは他の方の名文に委ね，先生との思い出を記します。

「蟹は甲羅に似せて穴を掘る」の例え通りに，私は結局数量分析も，理論研究も，そしてGISも，横目に見るだけの研究生活を送ってしまいましたが，学部生ごろまでは当時先端といわれた「計量地理学」も勉強しようという意欲だけはあり，3年次の同級生と木庭先生の自主ゼミの門を叩きました。そのテキストは野上道男・杉浦芳夫『パソコンによる数理地理学演習』（古今書院）で，結局自主ゼミ自体は空中分解に終わりましたが，いまも著者の方々のお名前を見ると当時を思い出します。

電化を翌月に控えた真新しい武田尾付近の福知山線を，国鉄（JRに非ず）のディーゼル急行「だいせん」に揺られて出かけた丹後半島の実習調査も，木庭先生と橋本先生が指導でした。そのレポートを木庭先生から大変誉めて頂き，大学院時代に一度成稿を志して未成に終わり，その後30年を経て『奈良大地理』第22号（2016年）に「過疎地域の公共交通におけるバスの役割」として寄稿しました。しかし，その時の私はすでに当時の先生より14年も歳を喰っていました。

（1988年卒業，1990年院M修了，1991年D中退，1998年論文博士，奈良大学文学部教授）

■ □教え子から□ ■

我が恩師

岩田　央之

木庭先生，長い間の関西大学での研究，教育活動，大変お疲れさまでした。最近やり取りさせていただいたお電話やメール等でも，いつまでも若々しく活気に満ちたお話しぶり，今後の研究意欲や教育活動への思いが十二分に拝見できる文章から，これからも益々ご活躍されることが容易に想像できます。

今振り返ってみますと，木庭先生とはご縁があって出会えたのだなあと勝手に感じております。私が地理学を学びたいと地理学教室のある大学を数校受験した中で偶然に関西大学に入学し，地理学実習の課題で故郷に広がるカルスト台地を対象に選んだのは木庭先生とのご縁に導かれたものではないかと。その後，石灰岩つながりで木庭先生のサンゴ礁に関連する研究のお手伝いをさせていただくことになりますが，採取した試料の前処理，各種機器を用いた解析といった作業は，幼少時から外で体を動かすことや手先を動かす工作を好んでいた私にとっては“渡りに船”でした。木庭先生の当時の研究対象地マジュロ環礁で卒論を，オアフ島カネオへ湾で修論を作成するに至ったのは，やはり木庭先生のライフサイクルといいますか，波長と合ったからではないかと思うのです。性分に合うことを学生時代を通じてできたことは大変幸せなことで，これは木庭先生との出会いなくしてはなかったのではないかと感じています。

現在，私は現地調査・測量，法務資料調査，対人・対官公庁折衝を必要とする資格業を営んでおりますが，その過程は自然地理学の調査解析手法と通じており，木庭研究室で学んだことが生きていると自負しています。悩むことがあると，木庭先生，OBの貝柄先生，私の三人で調査地の現成サンゴ礁上から空を見上げて「色々あるが（研究）がんばろう」と言い合ったことを思い出し，勇気づけられます。

冒頭でも申しましたが，今後の益々のご活躍を祈念し，最新成果のご一報をお待ちしております。ただ，くれぐれもご自愛くださいますよう。

（1996年3月卒業，1998年3月博士課程前期課程修了，土地家屋調査士）

■ □教え子から□ ■

木庭先生から頂いた学恩

岡久　友香

高校2年生の頃，「大学では地理を学びたい」という夢ができた。しかし，母校は神戸では悪名高い某高校。大学に進学する生徒は僅か。地理学科がある大学の資料を取り寄せたが，当時の志望校は別の大学だった。母に「地理検定1級持ってるんだから，落ちていいから受けなさい」と言われ，大喧嘩をしてAO入試を受験した。面接室のドアを開けると，木庭先生と目が合った。これが，木庭先生との出会いであった。私は，当時，環境保全に関心を持っていた。「君は，開発と生態系の保護の共存はできると思う？」というような質問をされたのをよく覚えている。

関大に入学し，3年生では木庭ゼミに所属した。ビオトープや景観生態学について学んだ。ゼミの仲間と研究室でソフトクリームを食べたこと，英語の論文を読むの

に苦労したこと…懐かしい思い出がたくさんある。自分の足で情報を得ることの大切さを教わり，淡路島の景観園芸学校にも通った。

木庭先生からは，人としての大切なことも学ばせていただいた。卒業間際に，父の癌が発覚した時，進路で悩んだ時…たくさん話を聞いていただいた。木庭先生は，何かアドバイスするわけではなく，ひたすら聞いて，時には豪快に笑ってくださることもあり，話をすると安心できた。念願叶って，兵庫県の採用試験に合格した時，自分のことのように喜んでくださった。中学校の教員になって12年目を終えようとしている。生徒たちの話をしっかり聞き，共に喜び，足を使って情報をつかみ，人と繋がることを大切にする。そして生徒の自立を促しつつ成長を支える。そんな私の大切にしていることの多くは木庭先生から学ばせていただいた。先生から教わったことを大切に，次の夢「関大の地理学教室に教え子を送り込む」ことを目指して，地理の楽しさを中学生に伝えていきたい。

（2004年卒業）

■ □教え子から□ ■　私の原動力　～「カッコいい大人」の教え～

中村　慎一

木庭先生は，それまでの私の人生で初めて出会った「カッコいい大人」でした。研究やフィールドワークに向き合う姿勢。ご自身の価値観に正直で，自由奔放，歯に衣着せぬ物言い。MacBookを携えるスマートな立ち姿。何者かになりたい大学生だった私は，その全てに憧れました。

木庭ゼミに入って航空写真立体視を教わり，河岸段丘に関する卒論を夢中で仕上げた日々は，私に「やればできる」という成功体験を与えてくれました。

氷河期の就職活動において，ようやく1社の内定を手にして満足してしまった私に「君はもっと良いところへ行ける」という言葉をくれた木庭先生。それは単に「有名企業に行ける」という意味ではなく，「もっと自分の気持ちに正直に，行けるところまで行け」と言われたのだと，今なら分かる気がします。

40歳を目前に控えた今，私は上場企業から転職し，親子に関する社会課題を解決するNPO法人に飛び込みました。

兼業小説家歴は10年になり，長女は12歳。子育ては続いてゆきます。

パートナーとの関係も，ありきたりな法律婚の枠を見直して新しい契約形態にできないか，共に模索する日々です。

妥協するな。自分の気持ちに正直に生きろ。胸に刻まれたその教えは，生涯消えることはありません。

恩師，木庭先生に，尊敬と感謝の気持ちを込めて，この文章を捧げます。

（2004年卒業）

■ □教え子から□ ■　木庭先生退職の思い出

前田　陽介

早いもので，大学を卒業してから16年が過ぎました。オリンピックも4回開催されるくらいですね！

僕が卒業したころは，非常に就職難の時代でした。今の学生さんも苦労してると思いますが，その先駆けみたいなものです。大学時代は2000年入学ということもあり，いろんな試みがされていました。僕はその中で副専攻と学芸員と測量学を地理以外で学びました。その中で現在は，測量学を生かして測量会社に就職後，いろんなことを経て浜岡原子力発電所の中でゼネコンの監督として働いています。

多くの人にとって，大学で学んだことはあまり世の中で役立たないとか思っている人がいるかと思います。ですが学んだことを生かせるかどうかは，常に自分次第だということを日々の仕事の中でいろんな人を見ながら感じます。

地理学の中では，僕は土木学科に行って測量していたり，副専攻したりと廻りとは違うスタンスでいつも学習してきました。要はいろんな知識や情報を自分の目で集め続けていました。言うなればインターネットで情報を集めるのを，自分の足で稼いでいたのです。

あまり気づかれてはいませんが…

学習したこと，人から得た知識，自分でその中で考えることが生きていく上では大事だと思います。今もそのスタンスはあまり変わりません。僕のことをあんまり理解してないと思いますが，不思議そうに見てる「木庭先生」は僕とはそんな付き合いでした。

（2004年卒業）

■ □教え子から□ ■　十数年後に芽生えたタネ

山本　政一郎

今でも実施しているのだろうと思うが，地理学専修の学生たちは3回生の時，教員とともに泊りがけで各地に実習調査に行く。私が実習調査に参加した2002年度は三重実習調査であった。木庭先生率いる自然地理班は木庭先生運転の車に同乗して，松阪市内で活動する人文班とは離れて行動することになった。テーマは，津波防災であった。そもそも木庭先生は津波堆積物を採取したかったようである。他学の大学院に進み，自然地理に関して学びを深めていった後で分かったことであるが，津波イベントの堆積物から年代測定をして，イベントの発

生間隔を出そうとされていたのであろう。しかし，人工的な改変が進んでおり，それは難しかったとのことであった。そこで，調査は津波防災に関するソフト・ハードの対策を中心に見聞することが中心であった，と記憶している。

私自身，自然環境について深く学んでみたい，という思いもあり，4回生で木庭ゼミを希望した。実は，それに加え，その調査で木庭先生の運転で往復する途中，休憩所の水道で顔を洗って眠気を醒ましておられる木庭先生の姿をみて，大変なのに何と有難いことだと感じたことも，希望理由の一つであった。

その調査の車中で，木庭先生と「平野」の定義についてお話しさせてもらったことを覚えている。その時のやりとりが，十数年経った現在，私が高校教員をしながら在野で取り組んでいる，高等学校の地理教科書の自然地理分野の用語問題，記述内容の学術的評価に繋がっている。学部3，4回生の時の「タネ」がようやく芽生えた思いである。

学会で木庭先生をお見かけしたことがある。変わらぬにこやかな笑顔でおられるのを見ると，私の人生に多大なインパクトを与えてくださったことへの感謝の念を禁じ得ない。

ご指導いただきまして，ありがとうございました。

（2004年卒業，旧姓：桶谷）

■ □教え子から□ ■

年賀状のやり取り

生地　泰明

木庭先生，ご退職おめでとうございます。退職はまだ先と思っていましたので時の流れの早さを感じます。私は学生時代，歴史地理の高橋ゼミに所属しており，自然地理を専攻した学生に比べれば，直接教えを請う機会は決して多くなかったと思います。しかし，大学院前期課程まで進んだこともあり，研究会や授業で鋭い視点でアドバイスをいただいたり，授業の合間に学友とともに食事をともにしたりと有意義な時間を過ごさせていただきました。また同期の木庭ゼミの学生は研究熱心な学生が多く，刺激を受けていました。

現在，私自身が地理学教室の行事に足を運ぶことが少なくなり，木庭先生に最後にお会いしたのは何年前になるか思い出せないくらいです。そんな中，近年私と木庭先生をつなぐものは年賀状のやり取りです。先生の年賀状は文章のみのシンプルな内容ですが，その時々の政治や教育の時勢についての所感や研究の近況がウィットに富んだ文章でつづられており，毎年楽しみにしています（年賀状終いをしたいという旨が書かれていましたがまだまだ続けて欲しいです）。また，石川県出身の近親者がおられるということもあり，石川県在住の私の様子を気にかける文章を添えてくださることもあります。社会科の教員をしていることもあり，地理教育について色々とお話したいこともあるのですが…それはまたお会いしたときに取っておきたいと思います。

退職されるとはいえお元気なことと思います。先生の今後のますますのご活躍を祈念しております。

（2004年卒業，2006年博士課程前期課程修了）

■ □教え子から□ ■

木庭先生との思い出

森本　英揮

春の新緑の季節になると，ゼミの一環として先生の自家用車で大阪北部の北摂山地をめぐり，地形や植生などについて学んだことを思い出します。先生は学生には常にフランクに接して頂き，ゼミや巡検では先生の笑い声をはじめ和気あいあいとした雰囲気でした。自然の観察においては，斬新な切り口・発想で色々な知見を示して頂きました。

私は自然地理学の中でも地形の分野に興味がありましたので，先生からは特に航空写真の判読の流儀を教えて頂き，未知の自然現象を探求する興奮と素晴らしさを教えて頂いたものと感謝しています。

先生のご勇退は，日本や世界にとりまして「ノーベル地学賞」級の研究者の喪失ではないかと，言うなれば「こばロス」のような思いもいたしますが，先生に賜りました数々のご指導に厚く御礼申し上げますとともに，さらなるご活躍をお祈り申し上げます。

（2006年博士課程前期修了）

■ □教え子から□ ■

木庭先生ご退職によせて

山崎　美佳

個性的で有能な学生が揃っていた，2003年度学部卒業生および2005年度博士課程前期課程修了生の中で，一段と手間のかかった私に木庭先生に「贈る言葉」執筆依頼が来るのは至極当然であろうと思いつつ，久しく文章を書いていないため，私の書く文章が木庭先生のご退職に寄せるための文章になり得るのだろうかという不安を抱きながらこの文章を書くことにします。

私と先生との出会いは，1回生の教職科目の「情報処理論」という講義でした。講義の履修登録の概要を読んでも理解ができず，実際講義を受けても理解ができたとは言えず，「これから大学の講義についていけるのだろうか」という不安がよぎったことを思い出します。その

不安は半分当たり，半分外れて，成績は「良」でした。成績票を見たとき，随分ホッとしたことを覚えています。

2回生以降の専修の決定時に，中学1年生以来，地理を学習しておらず，しかも本人ですら驚愕するほどの方向音痴であった私がどういうわけか地理を選び，無謀にも自然地理学に飛び込んでいきました。そこで受け止めてくださったというか，いなしてくださったというか，とにかく，私の地理学での居場所を作ってくださったのが木庭先生でした。

学部生のゼミでは，課題を追求するだけでなく，雑談を交えながら研究すべき内容を教えていただきました。自分の研究の方向性に迷った時は，様々な角度からの研究事例や実験を見せていただきました。決して突き放したり全否定したりすることなく，今思えば先生は当時の私の研究のゴールを見据えながら，時には迷宮入りしないようレールに戻し進めるためのヒントを与えてくださっていたように思います。

大学院に進学後，興味が民俗地理に変わってしまった私に対してもやるべきことはやるようにと諭していただきました。木庭先生の多大なるお気遣いのおかげで私の学生生活は「楽しかった。地理学を学んでよかった」という思い出となり，15年程経った今でも，方向音痴は一切治っておりませんが，先生と一緒にカフェや研究室で（時にお酒入りの）珈琲を飲みながら行ったゼミで得た知識と情報，思考は私の生き方の誇りになっています。

ここ数年，夫が年に2回，ゲストスピーカーとして関西大学にて講義を行っており，その度に先生の近況を聞いております。お会いできる機会がなくこの時を迎えてしまいましたが，これからも益々のご活躍を祈念しております。（2004年卒業，2006年博士課程前期課程修了，旧姓：尾崎）

■ □教え子から □ ■

北極星を見上げて

松井　幸枝

私はずっと薄氷の上を歩くような生活をしていました。青年期を迎えた人々の変化はすさまじい速さで起こり，私はどうしてもその速度についていくことが出来ませんでした。いつまでも変わらずに，屈託のない笑顔で廊下を走っていた少年少女では居られないのです。就職，昇級，結婚出産に子育てと周りが日々変化していきます。私はみんなが子育てや仕事，日常に勤しむときに会社を辞め，卒論で題材にした故郷の旧街道でうずくまって泣いていました。人々の価値観が変化していくのを目の当たりにして，私は不安定になっていきました。

そういう自分の輪郭がぼんやりしているときに，先生にフラッと会いに行きました。周りの速度に疲れたときに，先生を見ると安心しました。私は不変を求めたのです。先生は私の服装を見て「お葬式帰りのおばさんみたいなファッション」と素晴らしい例えを披露してくれました。私のこの青臭い悩みを馬鹿にせずに聞いて，先生の歴史や経験を先生の考え方で教えてくれました。

青年期なんか終わっても私は相変わらず足元もおぼつかないけど，今はちゃんとコンクリートの上を歩いています。美しく舗装された道端で，これまた相変わらずの先生にバッタリ会うと，その一日はよい一日になりました。

先生がこの度退職を迎えられたことは本当におめでたく素晴らしいことです。遅くなりましたが御退職おめでとうございます。でも私は大学の近くや駅，道端で先生を見つけて「こばせんせー！」って呼ぶことがなくなるかと思うと，寂しい気持ちになってしまうのです。

昔々の人たちは灯りもない暗闇で，いつもある動かない星を見上げて安心したんだと思います。道に迷った旅人たちも輝かしい不変の星を見つけて，自分たちの進むべき方向を導き出したんだと思います。

あの格好いい銀色のクロスバイクで田んぼに突っ込んだり，iPadで聖書を繰り返し読んでいるって教えてくれたり，クラシックは悲しくなるからとセンチメンタルな姿を見せたり，写真を撮るときは必ずポーズをキメたり，歩道の反対側から大きな声で「佐々木さーん，お土産のラスクおいしかったよーありがとーー！」ってお礼を言ってくれる，ロマンスグレーの髪が似合う先生に，私は，私の人生において大切なことをたくさん教えてもらったんだって思います。（2012年卒業，旧姓：佐々木）

■ □教え子から □ ■

木庭先生との思い出

鈴木　夏姫

木庭先生との思い出を探すと，思い出すのは，実験室で食べたお昼ご飯や，他愛もない会話，水田先生とのコント（笑），卒業後も心配してたまーに連絡をくださること…。叱られたこともたくさんあると思うのですが，キレイに美化されて，楽しかった思い出だけが残っています。

就活もせず，卒論も真面目にせず，さぞやご心配とご迷惑をおかけしたことでしょう。同期のゼミ生や水田先生，そして木庭先生の寛大なお心のおかげで，卒業できたと今でも思っています。それもあって，私の中での木庭先生は，「指導教授」というより，「大学時代からのお父さん」という方がしっくりきます。

卒業後も，フラっと実験室に行けば，木庭先生がいて「おぉ！来たんか！」と迎えてくださるのが普通で，そ

れが変わらず続くと思っていました。まさか，ご退職のお年だなんて…！と驚きです。

木庭先生，ご退職おめでとうございます。ですが，先生が大学にいらっしゃらないこと，寂しく感じます。そして，本当にありがとうございました。またお会いできる日を楽しみにしています。　（2013年卒業，旧姓：中川）

■ □教え子から□ ■

一周まわって大感謝

相澤　なつ乃

木庭先生，5年越しに謝ります。卒論が全然終わっていないのに，勝手に関西からいなくなってすみませんでした。

東北に実家のある私は，就職先で早めに研修を始めたい（すごくやりたい仕事だったんです）からと，学校まで徒歩30秒（！）という超好立地の住まいを引き払い，さっさと実家に帰ってしまいました。「ゼミは週1だし，家賃分で飛行機通学すればいいや～」と，めちゃくちゃナメていました。

引っ越しの件を事後報告すると，「君はバカなのか？」と顔では笑いながらも，たぶん先生は内心めちゃくちゃ怒っていましたよね。たしかにそうです。自分自身も社会人となり仕事を持つようになった今，その時の私の態度は，日々真剣に論文と向き合って“仕事”している先生に対して本当に失礼だったな…と深く反省しています。ほろ苦い思い出です。

大学時代の私は，“真面目な顔をした不真面目”で，自分がもし先生の立場だったら最も嫌だと思うタイプの学生でした。でも，そんな私を木庭先生は一度も見捨てないでいてくれたし，口すっぱくなんだかんだ言われた（今思えば，どれもありがたく頂戴するべき親切な助言でした）のも，ちゃんと愛情を持って接してくれていたからなんだと，今ならわかります。

ちなみに，ひねくれた態度を取りながらも当時から木庭先生のことは大好きで，ゼミ以外で木庭先生が担当している授業の時，近くに座っている見知らぬ学生が「あの先生おもろいな～」と言っているのを耳にすると，鼻高々でしたよ（笑）卒業後，私は関西を離れ，地元の仙台，そして東京へと移り住みましたが，年賀状を送りあったり，論文を送ってくれたり，たまにご飯に行ったり，なんだかんだで今も交流が続いていることも，すごく嬉しく思っています。照れくさくてご本人を前には言えないので，ここで言っておきますね。

それでは，いつまでもお元気で，学生たちの自慢の，自然体で素敵な木庭先生でいてください。

（2015年卒業）

■ □教え子から□ ■

木庭先生との想い出

青木　のぞみ

木庭先生この度はご退職おめでとうございます。

私は，木庭先生のゼミではありませんでしたが，よく研究室にお邪魔させて頂き，お菓子を食べながら会話するのが楽しかった思い出があります。卒業して社会人になってからもお忙しい中時間を作って頂き，ケープコッドに集まってみんなでおしゃべりできて楽しかったです。

最近では，西田さんと奈良県明日香村に連れてって頂き，木庭先生の発見を一緒に調査しに行きました。木庭先生は何か発見すると，突然速く歩いていくので，見失うことも多々ありましたが，今思えばご自身の研究に熱心だったんだな～と思います。ご自身の好きなことを仕事にできることは，本当に憧れます。

私が社会人になりたての時はよく相談に乗ってもらい，私の会社の上司の批判的な意見を言ってくれた時思わず笑ってしまいました。いつもウソ偽りない意見を言って下さるので，心に響いておりました。

またみんなでケープコッドいきたいですね！最近はなかなかお会いできる機会がないですが，日本に帰国した際はまた是非いろんな話を聞いてください。

（2015年卒業，旧姓：菅崎）

■ □教え子から□ ■

木庭先生へ

久保　美佳

お久しぶりです。お元気でしょうか？

この度は，ご退職おめでとうございます。今までの感謝の気持ちを込めて，メッセージのみとなりますが贈らせていただきます。

私は木庭先生と初めてお会いしたときから，色々衝撃を受けたのを覚えています。

今まで出会ったことのないオーラ…？ジョーク？言葉にするのは難しいですが。笑。

授業中は先生ワールドが全開で，途中何をおっしゃっているか分からないときもありましたが，先生が楽しそうに授業されていたのが印象的でした。

先生に興味を持ったのと，自然地理学が好きだったので木庭ゼミにお世話になりました。授業で色んな場所に散策に行きましたが，その最中先生は木に夢中になっていたり，着眼点が他の人とは違うなぁとよく感じていました。笑

ただゼミに入ってしばらくして，卒業論文を書くときにはいつも相談に乗ってくださったり，温かく迎えてく

ださったのを覚えています。お陰さまで，卒業論文も無事に完成することができましたし，あのとき一生懸命取り組んだことは今も温かい思い出です。

木庭先生のようなユーモアに富んだ方と出会えることはなかなか無いかと思います。出会えてよかったです。これからもお体に気をつけて人生を楽しんでください。

（2015 年卒業）

■ □教え子から □ ■

忖度なしの愛される性格

西田　みづき

個性的な地理学の先生方の中でも一風変わっていた木庭先生。意外と女性のメイクや服装に対しても敏感でいらっしゃり，色々なことに興味を持たれる方なのだな，と驚かされることも多かったです。久しぶりにお会いすると，「きみ，化粧が濃くなったか？」「きみ，眉毛が太すぎるぞ。」「きみ，顔大っきいなー！」など他の方に言われるとムッとしてしまうような発言も，先生に言われると何だか笑って許せてしまいました。忖度なしの素直な言動の数々が一つの個性として許されるのは木庭先生のユニークで，魅力的なお人柄があってこそなのだと思います。卒業してから社会に出ると，木庭先生のように素直な言葉を直接ぶつけてくれる方が少なくなり，悩んだ時には衝動的にご連絡してしまうこともありました。大学を卒業してからも，お忙しいなか時間を割いて話を聞いて頂く度に，本当に優しく，実はすごく色々なことを見てくれていた先生なのだと実感することが多かったです。木庭先生と話していると，先生の裏表のないお人柄に救われ，安心して自分の素直な気持ちを話すことで悩みを整理出来ていたように思います。また木庭先生がとても楽しそうに自分の研究について話して下さる姿は本当にキラキラしていて，何歳になっても知的好奇心に溢れ，常に学び続ける姿に，「私も頑張ろう！」と会うたびに活力をいただいておりました。私にとって地理学の先生方は皆さん本当に強い個性の塊で，各々がても輝いていらっしゃり，そんな輝く先生方にご教示頂けたことを本当に嬉しく思います。これからの人生も，楽しくそして充実した日々を送られることを願っております。

（2015 年卒業）

■ □教え子から □ ■

木庭先生のお言葉

中井　蒼

木庭先生，御退職おめでとうございます。学生時代，大変お世話になりました。ゼミは違うものの，先生とは廊下でばったり会うことが多く，会うたびに元気の出るお言葉をかけてくださった印象が強く残っています。進路で悩んでいたり，不安を抱えていた時期でしたので，先生の励ましは本当に心の支えになりました。

現在私は愛媛県のお店に勤務しています。好きな仕事に恵まれ，充実した生活を送っています。またお会いできる日を楽しみにしています。これからもお身体を大切にして下さい。

（2018 年卒業）

■ □教え子から □ ■

木庭先生

中野　さくら

この度はご退職の日を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。木庭先生には二回生の頃の授業から四回生のゼミで卒業するまで，お世話になりました。卒業論文や就職活動で悩んでいた私に対して，まるで追い討ちをかけるような厳しい言葉をかけて下さることもあり，さらに悩む事も多々ありましたが，それは結果として私の考えの甘さに気付くきっかけとなりました。

どんな学生も見限ることなく教えて下さる木庭先生の言葉は，厳しさの裏にたくさんの愛情を感じることができました。

木庭先生のゼミでたくさんの事を教えて頂き，学べたことを感謝しております。本当にありがとうございました。これからも先生らしく活き活きとご活躍下さい。

（2019 年卒業）

■ □教え子から □ ■

木庭先生からの一言

二木　裕太

木庭先生，ご退職おめでとうございます。時に優しく，時に厳しいご指導の下，多くのことを教えていただき，ありがとうございました。

自分が卒業を迎えるにあたり，厳しいお言葉で有名な木庭先生から頂いた心に残っている言葉があります。「社会人になっても君は上手くやっていけるからそのままの自分で頑張りなさい。」この一言は入社を控え，不安な気持ちに駆られていた自分を大いに勇気づけてくれました。このお言葉をいただいてから早一年，厳しい職場環境で揉まれながらも，学生時代に学んだことを生かし，元気に過ごしております。

生徒の事を第一に思い，冷静な口調でお話しされる木庭先生。研究の話になれば熱く語られる木庭先生。少ない時間でしたが本当に多くの事を教えていただきありがとうございました。これからもお元気でお過ごし下さい。

（2019 年卒業）

■ □教え子から□ ■

学問に誠実であること

桑名　友太

木庭先生へのメッセージということで，本当にいろいろなことを学ばせていただき，ただひたすらに感謝の言葉が尽きないのですが，ふと木庭先生と一昨年明日香に行ったことを思い出しました。その時は8月の終わりに差しかかり，非常に暑かった日だったと思います。私の調査に関して，最初に様々なことを教えていただき，昼食をいただいた後，甘樫丘を登りました。木庭先生はあの植物はなんだと問いながら息を切らすことなく登ってゆくのに対して，私は結局植物の名前も分からなかった上，息を切らしていました。私の軟弱さもひどいなと感じつつ，先生はすごいなと思いながら必死についていきました。地理学には体力も必要なのだなと改めて痛感した日でもありました。その後飛鳥寺跡や亀石などを歩きながら見て回り，帰路に就きました。2人で明日香を見て回るのは初めてであり，あの時は，楽しかったなと今非常に思っております。

木庭先生はあるゼミの時，「常に学問に誠実であれ」と私に仰いました。母から常に誠実でありなさいと言われて育ってきたので，私は思わず背筋を正してしまいました。同時に私も先生のように学問に誠実であり続けたいなと思ったのです。今振り返ってみると，先生のようにあり続けることはできたのかというと，あまりできていなかったなと自省していますが，これからは物事に対し誠実に，真摯に取り組んでいこうと心に決めています。

木庭先生の下で学ぶことができたのは何よりも得難き経験で，本当に価値ある時間を過ごすことができたものと思います。本当にありがとうございました。

（2018年卒業，2020年博士課程前期課程修了）

■ □教え子から□ ■

木庭先生との思い出

辻本　真由

この度はご退職心よりお祝い申し上げます。木庭先生には，地理学・地域環境学専修に所属した際長きにわたり本当にお世話になり感謝の限りです。特に△の卒業論文ゼミの件では，とても貴重な経験をさせていただきました。私が卒業論文のテーマに長年応援しているJリーグクラブについて書きたいと申した際に尊重して頂いたことや就職先決定の報告をさせて頂いた際に，「おめでとう，いい所行ったなあ」と有り難いお言葉を頂戴頂けたこと，本当に心から感謝いたします。卒業論文は自分自身至らない点ばかりでしたが，適切なアドバイスや後押しを受け励むことが出来たと思っております。これから新たな門出を迎えられ，木庭先生の人生が明るく照らされることお祈りしております。

（2020年卒業）

■ □教え子から□ ■

ワシて同ぜず

中井　香月

木庭先生にはお伝えしたことがありますが，私には先生が猛禽類の動物に似ていると思います。このイメージは最初から持っていました。そんな木庭先生と私の出会いは高校生の時です。自然地理を研究したかった私は，関西大学地理学教室の教員紹介ページをよみ，「サンゴ礁」のキーワードが目に入った瞬間，先生の下で学びたいと決めました。

いざ大学に入学し，木庭先生の学びの扉の授業を受けていると，先生は「今はもうサンゴの研究はしていないね。今は明日香の研究。」と言われ，私は密かに衝撃を受けました。それでもゼミ決めの際には，「サンゴの研究がしたいのです」という気持ちを隠し，木庭先生のゼミに希望を出しました。

そんな3回生のある冬の日，卒論内容が決まらず，先生の部屋へ訪ねました。そして，私の「海岸で綺麗な貝やガラス，サンゴを拾うような研究がしたい」という，子ども感まる出しの言葉を丁寧に汲み取ってくださり，現在私が研究している，造礁サンゴ礫の分布という研究内容を与えてくださりました。

何回も同行していただいた調査では，潮位の関係もありましたが，自然環境を相手に調査をしているのに，ゆっくりと起床し，のんびりと朝ご飯を食べ，出発は10時頃というスケジュールで行動し，さらに，おやつを挟み，夕方には焦るという毎回でした。これは，マイペースな先生と私であったから何のストレスもなかったのだと思います。険しい岩場や階段も2段飛ばしでびゅんびゅんと行き，手こずっている私を見て笑っている先生の顔が忘れられません。とても面白かったし，楽しかったですが，今後は安全には気をつけてください。

最後にまとめとして，冒頭の先生のイメージについてです。クールでシャープな外見からこの印象を持ったのかと思いましたが，それと共に，生態系の頂点に位置する猛禽類の，強さ，速さ，高貴さ，そして何より孤高さが先生からにじみ出てていたからだと思います。

木庭先生，本当に丁寧なご指導ありがとうございました。またお会いしたくなったら，先生が入店されると同時にコーヒーが用意されるスタバへ行かせていただきます。

（2018年卒業，2020年博士課程前期課程修了）

■ □教え子から□ ■

「何回驚かされたんやったっけ…」

松川　昭太朗

1回生のとき，知パス授業での京都巡検が行けなくなったので，代わりに5月あたりの恒例の2，3回生を中心とするバス巡検（鳥取）に参加させていただいた。ホテルでの夕食時にたまたま木庭先生の前に座ったのでいろいろと尋ねられ，私が器械体操をやっていることを話すと，「若い時に友達と独学で鉄棒の車輪を（公園で？）練習してたよー。」のお返事が。どんな練習メニューだったかはわからないですが，素手でやれば手の皮がより簡単にむけますし（プロテクターしてもむけます），棒がしならないなど条件がわるいのが目にみえたので，悪条件でそんなことができたのかと驚かされました（筆者は3年ほどかかった）。それよりも先生が過去に鉄棒の練習の経験があったことに驚かされました。

3回生のときの元日，たまたま千里阪急ホテルでイベントの手伝いをしていたところ，先生とご家族が訪問していらっしゃった。そのときは自分のところの出し物の簡単な説明と雑談をして別れました。たまたまやろうと思ってたのですが，翌年も同じ出来事が。2020年もそうでしたね。

学部の卒論試問のとき，まともな論文ができなかったので先生方からお叱りを受けることは覚悟してました。ここが足りひんかったね，と他の先生方からコメントをいただけたのですが，終盤での木庭先生のコメントは，最近雪で鉄道止まること多いよね。なんで鉄道はちゃんと除雪しないの？　といった質問でした。試問に身構えていたので目が点になってしまいました。木庭先生の質問の時間はほんのわずかでしたが，あのときの試問の記憶はほぼそれでした。

木庭先生には学業面でお世話になったのは言うまでもないですが，私としては上述のように学業外でいろいろ驚かされた印象のほうが大きいです。私も地理学教室にいられる時間はもうわずかですが，その中で私はあと何回驚かされるんやろう…。楽しみにしています。

（2018年卒業，2020年博士課程前期課程修了）

■ □教え子から□ ■

木庭先生からの学びを振り返って

松原　太陽

今だから言えることですが，木庭先生の考え方や価値観は，多くの学生になかなか理解されていなかったように思います。正直，僕も最初はその1人でした。そんな中，偶然なのか，僕が3回生になって木庭先生のゼミに配属されたことは大きな転換点となりました。最初のゼミ授業で，先生は「大学では，先生の生きる姿勢を見て，そこから自分で学んでいこうとすることが大切だ。」というようなことを仰いました。それなら，これから自分を指導してくださる木庭先生のことを可能な限り，改めて理解したいと思いました。そこで，卒論ゼミでは先生が授業中に話されたことを一字一句，ノートに書いて残していくことにしました。また，時間ができた時は木庭先生のウェブサイトを見て，日々の出来事や物事に対する先生の視点を拝見しました。これらを続けたことで，授業中に先生が今，何をゼミ生に伝えようとされているのかという本質的な部分が少しずつ分かってくるようになりました。今ではすっかり木庭ファンの1人となりました。

4回生の卒論ゼミで木庭先生が「一つの疑問をまじめに考えると必ずと言って良いほど新たな発見がある。」と仰っていたことが非常に印象に残っています。卒業論文の作成にあたっては，世の中にある常識や一般論にとらわれず，自分の目で見て感じたものに対して，自分なりに考え，何らかの結論を出すことにこそ意味があると仰っていた点に感銘を受けました。ある時，僕が卒論で取り組んでいる内容は，あまり地理学らしくはないのではないかと不安になったこともありました。しかし，木庭先生の「君はそのままで良いから，このまま続けなさい。」という言葉に背中を押していただき，嬉しかったです。

大学で木庭先生に出会えて本当に良かったです。先生のウェブサイトの更新をいつも楽しみにしています。これからも是非続けてくださいね。大変お世話になりました。ありがとうございました。

（2020年卒業）

■ □教え子から□ ■

木庭先生へ

三好　拓也

ご定年おめでとうございます。木庭先生，地理学専修での授業やゼミも含め，約3年間ご指導いただきありがとうございました。

ゼミ卒論では，卒論と就職活動との同時進行ということもあり，進捗状況が悪かった時や全く手を付けていない時もありました。しかし，木庭先生はどのような状況であっても常に真剣で相談に乗ってくださいました。ありがとうございました。先生のおかげで，無事に卒業論文を作成することができました。

先生の今後のご健康とますますのご活躍をお祈り申し上げます。

（2020年卒業）

■ □教え子から□ ■

木庭先生の思い出

安田　えり

私は，大学と大学院という長い期間を関西大学でお世話になりました。ですが，私は農村について勉強をしたかったため4回生から野間晴雄先生のゼミにお世話になっていたこともあり，木庭先生と頻繁に会うということはありませんでした。

木庭先生とは，3回生のゼミや自然地理学概説，調査研究法などの授業でお世話になりました。調査研究法の授業は当時の自分ではわからないことが多く，友達に相談しながら授業を受けていたという記憶があります。そのなかで，私の感じた木庭先生のイメージは，良い悪いなど自分の意見をはっきりとおっしゃる方というものです。3回生のゼミで，読んできた論文を発表する際には，「この論文は間違っている。これには意味がない」と話されているのがとても印象に残っています。短い期間ですがこれまで生きてきたなかで，これ程物事をハッキリと意見される方とは会ったことがなかったので衝撃を受けました。またそれと同時に，論文に対する反論もきちんと話されて，また木庭先生の自然地理学だけでない知識量の多さに感銘を受けました。

2018年7月には，木庭ゼミに所属している友達の調査に一緒について行きました。その時は，木庭先生と友達と私の3人で，高知県の室戸岬まで木庭先生の車で行きました。友達の調査はサンゴ礫についてであったため，泳げない私は留守番をし，友達と先生は海に潜りに行くということが何度かありました。その時，なかなか帰ってこない2人に対して，最初は溺れてないか心配になっていましたが，海がきれいだったと話ながら帰ってきた様子を見て，私よりも木庭先生の方が何倍も元気でいらっしゃるなと感じました。

木庭先生の授業がなくなった4回生以降，時々廊下などで先生にお会いする時，久しぶりと挨拶してくださるのが，いつも緊張していましたがとても嬉しく感じていました。退職されてからも，元気でお過ごしいただけたらと思います。

（2020年博士課程前期課程修了）

■ □教え子から□ ■

木庭元晴先生との思い出

齋藤　鮎子

木庭先生は私が学部生の頃，サンゴのご研究に御熱心で，自然地理学概説だったか授業の中で口癖のように，「ノーベル賞を取る」と広言されていた。ああ，こんな凄い目標を持って研究をされている先生がいるのかと，感服した。

私の3回生ゼミは木庭先生が担当された。ゼミの思い出は，同ゼミ生で親友のDさんと木庭先生のいざこざに巻き込まれたことである。ある日，木庭先生はDさんの発表について，「意味ないねー」と一刀両断され，Dさんは泣きながら部屋を飛び出した。

同日夜，私は6限目の授業を受けていた。授業が始まるとすぐに木庭先生からしつこく入電があったので，仕方なく教室から出て電話を受けた。木庭先生はいつもと少し違った声で「齋藤さん，Dさんと仲良しだよなー，Dさんのこと見て来てくれるかー」とおっしゃった。私はとにかく早く授業に戻りたかったので，承知した旨だけ伝えて電話を切りたかったのだが，なかなか切らせてくれない。壊れたラジオのように同じことを何度も繰り返された。ああ，なんて不器用なお人なのだろうと，初めて木庭先生の人間味を感じた瞬間であった。

木庭先生はメールをツイッターのように使う。どうでもいい内容を突然送ってくるが，たまに響く言葉がある。私が何気なく博士論文が上手くいっていないことをぼやいた。木庭先生はご存知の通り，非常に論理的でなおかつ誰にも忖度しないお人である。さらに研究に対しては非常にストイックである。なので，きっとお返事は淡泊で冷淡な内容であろう，これをムチとして励もうと思っていた。

「博士論文作成を通じて，研究者への道を切り開いて行くのだと思います。君の人生にとって，大切な時間です。ただ，社会的に報われるかどうかはわからない。そうゆうもんです。悩むね。」との返信に，私は心が揺さぶられ，この言葉に何度も救われた。

結局，木庭先生は良く分からない人であるが，いい人であり，私は尊敬している。

長い間，本当にお世話になりました。心から感謝しております。ありがとうございました。

（博士課程後期課程3年）

2020年度の関連行事予定

4月18日（土）教室オリエンテーション（13時30分～）千里地理学会研究例会（15時～），新入生歓送迎会
※中止となりました
5月23日（土）バス巡検（桜井・曽爾方面）　※日程は変更する可能性があります。
10月4日（日）徒歩巡検（富田林・羽曳野方面）　※卒業生も参加できます。
12月5日（土）史学地理学会（3回生が実習調査をポスター発表）
12月12日（土）第2回千里地理学会，地理学研究会・同窓会総会

詳細は教室HPをご覧下さい。http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/　日程に変更がある場合はHPにて告知いたします。

卒業生・修了生からのひと言

〈卒業生〉

石田大貴
3年間地理学でお世話になり，ありがとうございました。在学生の皆様へ，単位は3回生までに取り終えといた方が良いですよ。

北沢友章
関西大学ならびに地理学の専修で学んだことや出会った人，できた思い出は今後の社会人生活の糧になることと思います。卒業後も色々な土地へ足を運び，見聞を広めたいと思います。4年間大変お世話になりました。

外木場浩太朗
地理学での大学生活はとても楽しく非常に良い時間を過ごさせてもらいました。特に三回生時の高岡での調査では，調子に乗って日本酒を飲み公園で寝て風邪をひくなど良い思い出になりました。調査でも，班一丸となり活動を行ったことで，チームワークの大切さ協調性を学びました。地理学に入って良かったです。

丹尾早由里
地理について多く学べた有意義な4年間でした。特に富山県を訪れた巡検は，ひとつの地域を深く調査できた貴重な体験でした。ありがとうございました。

藤﨑茜
諸先生方のお陰で卒業の運びとなりました。3年間貴重なご指導・ご鞭撻，誠に有り難う

■ □ 秋の日帰り巡検報告 □ ■

京田辺市と井手町周辺を歩く

奥田　依吏子

2019年10月6日，「南山城・京田辺市と井手町の都市化と自然改変」というテーマで日帰り巡検が行なわれた。

暖かな日差しが降る秋の日，JR学研都市線の松井山手駅改札口に集合し，関西大学地理学専修の学生，先生方，OBの方々とともに早速，駅前・インターチェンジ付近を見学した。

駅周辺は1970年代から住宅地の開発が行われ，現在も世帯数が増加しているという。また，新名神高速道路と北陸新幹線のルートになったことに加え，駅前から遠目には2018年に開設された大型商業施設も見られ，開発が盛んであることが良く分かった。

駅前のバスに乗り次に向かったのは，月読神社である。境内には木漏れ日が降り注ぎ，人は誰もおらず，ひっそりとした様子であった。この神社では10月の夕刻に大隅隼人舞が奉納されるという。約1300年前，南九州に住んでいた大隅隼人が宮廷で演じた舞を，地元の中学生が躍るという，伝統の継承がなされていることがよく分かるものだ。

広大な田んぼに挟まれた道路に沿ってしばらく歩き，長い坂を上ると，一休寺にたどり着いた。かの有名な「一休さん」が，臨済宗大徳寺派の禅僧として後半の生涯を送り，永眠した寺と言われている。靴を脱ぎ，少しきしむ木の床の上を歩いて縁側に出ると，内部に安置された釈迦如来像が安置されていた。暗い本堂の中で，金色の像が印象的に浮かび上がっており，像の前では先客の小さな女の子が正座していたほかに，座禅を組んでいる人も居り，厳かな雰囲気が漂っていた。また，反対側を見ると枯山水があった。鳥の鳴き声だけが聞こえる静かな環境で，学生たちは縁側に腰かけ足をのばし，少しの間くつろいでいた。

その後，近鉄新田辺駅まで歩き，周辺で昼食をとることとなった。閑散とした様子の駅前で定食屋を見つけ入ってみると，木の温かみが感じられる店内には豊富なメニューがあった。少し先には，有名な京田辺の玉露が楽しめるカフェもあった。

再び集合して田んぼ道を歩いていると，頭上にコンクリートが見えた。皆が何気なく通り過ぎようとすると，先生方が呼び止め，この，多くの学生が道だと思っていたものは，河床が周辺の地面の高さよりも高くなっている，いわゆる天井川だと説明して下さった。自分たちの背丈の倍ほどある高さの上を，水が流れているというのは何とも不思議な感覚であった。天井川はここ以外にも，2か所ほど見つけられたため，京田辺市という地域の特徴の一つと言えるだろう。

午後の光がいくらか薄れてきたころ，遠くのほうに斜面が見えた。歩いてきた道を外れて近づくと，黒色の覆いがしてある茶園であった。茶の美しく濃い緑色は葉緑素によるものである。覆いをして光量が減ると，葉が光合成をしようと適応するために多くの葉緑素を作るのである。茶の高級な青海苔のような香り，その他コク，うま味，品質を高める物質も，この「覆い」の技術によって高められているという。香りを嗅いでみると残念ながら無臭であったが，春の茶摘みの頃がより一層楽しみとなった。

茶園のすぐ近くには，古墳跡があった。京田辺市飯岡地区は中心部が標高約67mの独立丘陵であり，木津川の水運に関係する一族の墓と考えられる古墳が点在しているという。これらは4世紀から6世紀のものが多く，飯岡丘陵の頂上からは木津川の流域を含む南山城地域全域を見渡すことができる。今回頂上には行かなかったものの，立っている場所は周りよりも少し小高くなっており，田んぼが広がる景観を眺めることができた。約14世紀も前にあったものが，その形はなくとも，現代において場所が特定されているということに，地理学や歴史学の重みを感じた。

その後，一日に二本のみ出ているバスに乗って駅へ向かう者と，さらに井出扇状地（玉水）を見る者に分かれ，この日は解散となった。

今回の巡検で，同じ風景や物を見るときでも，事前に知識を深めていると，さらに面白くなるということを学んだ。これは，着目する点が増えるからだと思う。例えば，私は京田辺市の茶業についての文献を読みその内容をまとめたため，茶園の覆いを見て，春に美味しい茶を摘むために，この秋から工夫がなされているのだと気づくと感慨深かった。普段であれば，茶園を覆っている黒い網を気に留めることもなかっただろう。また，インターネット上の京田辺の茶園の写真はどれも鮮やかな緑が映えていたが，2019年10月6日には，一見淋しい風景であった。しかし，お茶の葉が今まさに，光のない中で適応しようとしていると思うと，どこかほほえましかった。また，このように，多い手間と，長い期間をかけられたお茶を私たちが飲むと考えると，物質の循環を身近に感じるようであった。

このような機会を作ってくださった先生方に感謝するとともに，これからも，あらゆる地域について学び，理解を深めていきたいと思う。

（おくだ　えりこ：本学2回生）

■ □実習調査報告□ ■

長野県軽井沢町での実習調査

松井　幸一

本年度の実習調査は長野県軽井沢町で10月8日～12日にかけておこなわれた。引率教員として土屋純，松井幸一の2名，ティーチングアシスタントとして安田えり，大学院生1名，学部生26名の計30名であった。初日は軽井沢駅に昼頃に集合した後，軽井沢町観光振興センターで軽井沢町役場および観光協会の方から軽井沢町の概要について説明を受けた。全体説明の後は各班に分かれて事前に要望していた調査内容の説明を受けたり，資料を提供していただいたりした。

2日目からは各班に分かれて調査をおこなった。本年度は「軽井沢町における自然管理と防災―自然の管理・維持と火山噴火を例に―」，「軽井沢の付加価値的な農業と食産業」，「軽井沢町における交通の変遷と新交通のインパクト」，「多様化する軽井沢町の観光」，「軽井沢町の文化形成 ―異国文化と別荘文化を中心に―」の5つのテーマを設定した。

自然班は役場やNPO法人などに積極的に話しをうかがうほか，NPO法人が主催するエコツーリズム体験にも参加し，自然環境プログラム提供側と受け手側の両者の調査をおこなった。食農業班はJAや直売所などで精力的に聞き取りを重ねたほか，6次産業化などについても調査をおこなった。交通班は近世軽井沢～現在までの交通の変遷を文献などから丹念に調べ上げ，また軽井沢駅周辺などで駐車場の利用実態調査をおこなった。観光班は軽井沢での観光実態調査や宿泊場所の変遷，新たなブライダル産業など幅広い調査をおこなった。まちづくり班は軽井沢が持つ異国文化と別荘イメージに着目し，外国文化イメージの定着，別荘地の変遷，歴史的建造物の保存活動などを調査した。

調査は概ね順調に進み，予定していた調査は4日目までにはほぼ終えることができた。今回の実習調査では最終日に台風が関東地方を通過することが予想されており，多くの学生が東京周りで帰阪するため，交通機関が止まることが考えられた。そのため異例ではあるが，現地教員の判断で実習調査を1日切り上げ，11日の夕方に帰路につくことにした。実習調査の切り上げは極めて異例のことであったが，その後関東を中心に2日ほど全交通機関が止まった事を考えれば，ぎりぎりのタイミングでの帰阪となった。

今回の調査は3月末には実習調査報告書として刊行される予定である。この実習調査の経験を活かし卒業論文に向けての調査・分析・執筆が順調に進むことを願っている。

（まつい　こういち：本学教員）

宿舎の塩沢山荘にて

事務局からのご報告とご意見募集

・昨年より地理学研究会は千里地理学会を呼称しております。千里地理学会は独立学会として大学から補助金を受けており，学会としての独立を求められています。このため千里地理学会を独立団体とすると，教室関連の団体として地理学研究会，地理学同窓会，千里地理学会の3団体が並立することになります。教室および事務局の規模に対して団体数が多すぎるため，2月3日の幹事会で千里地理学会の扱いを検討いたしました。

その結果，千里地理学会の補助金は今後の学会運営には欠かせないこと，事務局の人手不足は深刻なことなどを考慮して，以下のように提案がありました。

1. 研究会と同窓会を合併し地理学研究会とし，会則で同窓会業務を担うことを明記する。
2. 千里地理学会は独立学会として存続させつつ，研究会の行事を千里地理学会との共催扱いとする。
3. 研究会，同窓会の合併について本号で意見を募り，2020年12月の総会で決議をおこなう。

本件について，卒業生の皆様の忌憚のないご意見を事務局へお寄せくださるようお願い申し上げます。

御座いました。先生方にご教授頂けたことを誇りに思います。最後に地理学教室の益々のご発展と皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

町田路朗
学生時代はあっという間でした。故郷の北信濃から大阪に来て，とても多くのことが学べたと思います。関西での暮らしは毎日が新鮮でした。四年間，ありがとうございました。

松尾優介
地理学での学びを通して，学問の末端に触れられたような気がしました。この経験を活かして今後の進路を歩みたいと思います。

松原太陽
子どもの頃から好きだった地理の専修に所属できて本当に幸せでした。巡検や実習で知らない土地に訪れたり，それぞれ個性が強い先生方の授業を受けたり，地理関係の話で同期と盛り上がることができたのも，ここに入った醍醐味でした。ありがとうございました。

村上綾太郎
元々地理が好きでこの学部に入ってきましたが，ここでの4年間でより好きになれました。一番の思い出はやはり高岡での巡検です。良い経験となりました。4年間お世話になりました。ありがとうございました。

三好拓也
フィールドワークや実習調査など様々な研究方法を

学ぶことができる地理学専修では，難しい授業も多く大変ですが，友達と協力して上手く乗り越えていってください。

〈大学院修了生〉

桑名友太
2年間お世話になりました。忙しくもあり，大変だったこともありましたが，非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。卒業後も一生懸命で，誠実な姿勢をもって精進してまいります。ありがとうございました。

松川昭太朗
先生方はもちろん，縦や横とのつながりにも恵まれ，悔いのない学生生活を送ることができました。地理学を通して得た視点や，反省点は書ききれないほどございます。ありがとうございました。

中井香月
大学院生になってからは，学会や記念式典などのイベントが重なり，報連相や事前準備の重要性を学ぶ機会が多く，貴重な経験を得ました。社会人になってからも関大地理学で学んだ経験を活かしていきたいです。

安田えり
私は6年という長い年月，関西大学にいました。その間，地理学教室にかかわる先生方にはとてもお世話になり，また様々な経験もさせていただきました。地理学を専修しよかったと思います。ありがとうございました。

地理学教室50周年記念式典の実施

2017年に教室創立50周年を迎えたこともあり，2019年12月14日に地理学教室50周年を祝う記念式典と祝賀会を開催した。当日は退職された橋本征治名誉教授，伊東理名誉教授の両先生を来賓としてお招きした。50周年記念式典では橋本先生に教室成立期を中心としたお話，2020年3月末で退職される木庭先生に教室の思い出を語っていただき，記念式典に続いての教室案内では実習室や実験室などで卒業生同士の旧交を温めた。

祝賀会では渡邉登同窓会長の挨拶や伊東先生による祝辞・乾杯，後に歓談を挟みつつ卒業生による近況報告などがおこなわれ，最後は校歌斉唱で締めくくられた。なお記念式典には62名，祝賀会には73名の参加者があった。またこの50周年記念事業の一環として教室の歴史をまとめた『千里地理成長記3』を刊行し，祝賀会の参加者に贈呈される予定であった。ただ諸般の事情で完成が4月にずれこみました。

＊祝賀会に参加されていない方で『千里地理成長記3』をご希望の方は2000円でお譲りしています。ご希望の方は事務局まで氏名，住所をお伝えいただき，代金を以下まで入金してください。

銀行名：ゆうちょ銀行
振替口座：00960-0-196189（関西大学地理学教室退職記念事業会）
他の金融機関からの振込　店名：〇九九店
預金種目：当座　　口座番号：0196189

記念祝賀会での集合写真

〈同窓会事務局ニュース〉

・2010年の卒業生に対して郵送による消息調査をおこないました。
・2019年12月14日（土）に関西大学千里山キャンパスで地理学教室50周年記念行事を開催いたしました。詳細は別記事をご覧下さい。
・2020年2月3日（月）に研究会・同窓会幹事会を開催いたしました。
・2020年度の行事予定は以下の通りです。変更などありましたら随時, HPでお知らせいたします。
　4月18日（土）　千里地理学会研究例会 15:00 ～ 16:45
　　教室新歓コンパ 17:00 ～（以文館食堂を予定，卒業生は4000円）
　10月4日（日）秋の日帰り巡検
　12月5日（土）史学・地理学大会（学部生による実習調査ポスター発表）
　12月12日（土）地理学同窓会総会，2020年千里地理学会（第2回）
・今年度の卒業生の主な進学・就職先は以下の通りです。（50音順）
　太平電業，筑波大学システム情報工学研究科社会工学専攻，ナカバヤシ株式会社，長野県職員，寝屋川市役所，六甲バター株式会社，東大阪市役所
・50周年記念行事にあたり次の方々からご寄付をいただきました。赤松秀貴，飯田雅弘，伊東理，岩田央之，上野裕，上野和雄，大倉俊，小椋純一，貝柄徹，夛田祐子，田中清隆，遠川明彦，中村雅俊，西岡尚也，橋本征治，東出修一，三木理史，水野浩，三好唯義，吉兼崇博，吉田雄介，渡邉登（50音順・敬称略）
・同窓会通信の執筆を募集しております。1ページ1600字程度，半ページ800字程度です。執筆いただける方は教室メールアドレス［kandaichiri@gmail.com］までご連絡ください。また，会費の納入状況などのお問い合わせも上記メールアドレスにお願いいたします。

教室だより

■卒論中間発表会

2019年10月3日（木）10時40分から17時50分まで第1学舎A301で，大学院生・現役2・3回生をまじえて開催しました。発表者は卒業論文を提出予定の22名でした。

■秋の日帰り巡検

2019年10月6日（日）に秋の日帰り巡検が実施されました。「南山城・京田辺市と井手町の都市化と自然改変」でコースは次の通り。JR学研都市線松井山手駅～駅前・インターチェンジ付近の変貌～（バス）～花住阪住宅地～大住・月読神社～岡村～一休寺・薪～JR京田辺～近鉄新田辺駅（昼食，一次解散）～（電車）～近鉄興戸駅～防賀川（天井川）～飯岡（茶園・古墳）～玉水大橋～井手扇状地～JR玉水駅　地理学・地域環境学基礎演習a・b（主として2回生）の受講生，M1の趙欣鑫，大学院研究生の徐雨辰さんらが巡検資料を作成し，現地で発表しました。TAは4回生の藤崎茜。総勢45名の参加で，卒業生では東出修一，矢野司郎，松本太さんの3名が参加されました。指導教員は野間晴雄，土屋純でした。

■地理学・地域環境学実習での軽井沢町調査

2019年10月8日（火）から11日（金）にかけて，長野県軽井沢町にて実習調査を実施しました。指導教員は土屋，松井。3年次生26名と，大学院博士前期課程1年次生1名，大学院研究生1名，ティーチングアシスタント1名），教員2名の計30名で実施しました。本来は12日までの予定でしたが，季節はずれの台風19号の接近で1日調査を短縮しました。調査内容は，1）軽井沢町における自然管理と防災―自然の管理・維持と火山噴火を例に―，2）軽井沢の付加価値的な農業と食産業，3）軽井沢町における交通の変遷と新交通のインパクト，4）多様化する軽井沢町の観光，5）軽井沢町の文化形成―異国文化と別荘文化を中心に―。　2020年3月1日に調査報告書『長野県軽井沢町町の地理』，全174頁が刊行され，お世話になった関係者・関係機関や全国の地理学教室に発送しました。

■ 2019年人文地理学会大会

2019年11月16日（土）～17日（日）に関西大学千里山キャンパスにて人文地理学会大会が開催されました。16日朝にミニ巡検（千里山住宅地，豊津～垂水神社などの2コース），午後1時から特別発表（4件）が行われ，木庭教授もここで近年の飛鳥の成果地形幾何学の成果を発表しました。凛風館食堂での「大阪もん」「吹田もん」を大学院生が工夫して提供いただき好評でした。詳しくは人文地理学会のホームページをご覧下さい。多くの専修学生・大学院生の協力を得て成功裡に終了しました。1日あたり約400名の参加者でした。18日（月）には中型バスと徒歩で吹田市の健都（岸辺），茨木市北部の隠れキシリタンの里，高槻ミューズキャンパスをまわる巡検を実施しました。

■第1回千里地理学会（創設大会）と地理学教室50周年記念式典・祝賀会

従来の地理学研究会例会を発展的に改称し2019年12月14日（土）13時～15時に千里山キャンパス第1学舎1号館A503教室で開催しました。その題目は以下の通りです。

野間晴雄「関西大学地理学研究会から千里地理学会創設へ」

土屋　純「阪神大震災後のコープこうべにおける供給事業の改革」

張　欣鑫（関西大学大学院博士前期課程）・安田えり（関西大学大学院博士前期課程）・「長野県軽井沢町の変容と地域活性化」

細谷和海（日本魚類学会会長・近畿大学名誉教授・関西大学非常勤講師）「シーボルトのみた水辺の原風景」

その後，同じ会場で15時～16時橋本征治（関西大学名誉教授），渡邉　登（関西大学地理学教室同窓会・会長），2019年度末で退職する木庭元晴教授らによるスピーチがあり，記念撮影をしました。式典終了後，16時から新しくなった実習室・実験室・院生室などを卒業生にご案内しました。さらに以文館食堂で現役学生・大学院生もまじえて，祝賀懇親会を盛大に開催しました。世代の異なる多くの卒業生の皆様にスピーチいただきました。

■地域調査士講習会

10月27日（日）に関西大学で日本地理学会資格専門委員会主催の地域調査士講習会が開催され，本専修からも学生が受講しました。参加者は約30名。担当は松井幸一，野間晴雄が「心構え」を講義しました。

■ベトナムフィールドワーク研修

2月11日～20日まで中部のフエとその周辺地域，ハノイでのフィールドワーク研修（4回目）を松井幸一，土屋純の2名の教員が同行して実施されました。学生参加者は10名で18年度に続き2回目の人もいました。

■ベトナム国家大学ハノイ理科大学地理学部講師のグエン・ティ・ハータイン氏をはじめ学生・専任講師11名が，2020年2月20日（木）～28日（金）に関西大学地理学教室を訪問し（南千里国際交流会館で宿泊），21日には共同セミナーを地理学実習室で開催しました。ベトナム側はLe Phuong Thu :Status - Quality Trade off theory（SQTO）and applications in property valuation，Duong Thi Thuy：ベトナムにおける観光，関大側は最終日に予定していた岸和田城下町見学のオリエンテーションをかねて野間がCastle Towns in Japan: Origin，Form and Renovation for City Walkingを発表しました。さらに，松井，野間，齋藤鮎子（大学院生）の案内で，大阪，神戸，京都を巡検しました。コロナウィルスの感染拡大により，一部の予定を変更しましたが無事帰国しました。

■教員の国外出張

松井幸一：2020年2月12日～20日ベトナム（フィールドワーク研修の同行）

土屋純：2020年2月15日～20日ベトナム（フィールドワーク研修の同行）

野間晴雄：2020年3月5日～15日：ドミニカ・ハイチでのサトウキビ栽培史・製糖史の調査（科学研究費）。

■本年度の学部の卒論提出者は21名，卒業生は19名，大学院博士前期課程の修了者は4名です。2月10日に実施した口頭試問の結果，松原太陽君の「大阪府八尾市の食事提供や学習支援による「子どもの居場所づくり」」が最優秀となり，卒業式のときに学部長表彰をうけます。

随想

人間万事塞翁が馬

由水　千景

現在，環境地理学（春学期半期）を担当させていただいております非常勤講師の由水です。こちらの講義は2015年より担当させていただいておりますが，私が最初に関西大学にご縁をいただいたのはそれより前の2012年の大学院講義でした。木庭元晴先生より，窒素安定同位体比を用いた流域の環境変化に関する研究を予定している院生さんのために安定同位体比の基礎，研究例，測定方法等に関する講義を担当してほしいということで，当時，京都大学生態学研究センター（CER）にて安定同位体比質量分析計（IRMS）の管理等を行っていた私のところに話が来ました（その後，2018年にも再度担当させていただきました）。この講義を担当することになって驚いたのは，木庭先生のアクティブさ，アグレッシブさでした。開講前から質問攻め，開講中も授業に参加されたときは学生さん以上に質問攻め，何にでも興味を持って楽しそうに話をされるのがとても印象的でした。

私がIRMSの管理を行うようになってからもう十数年になりますが，当初はこのようなことをすることになろうとは思いもよりませんでした。

最初の夢は宇宙飛行士になることでした。しかしこれは身体的な問題から努力する以前に潰えてしまいました。小中高時代は，天文学や航空宇宙工学方面に進もうかと考えていましたが，一方で考古学も好きだったので，そちら方面も考えていました。

大学受験では色々痛い思いをし，不本意ながらも何とか天文学を学べる大学に入りましたが，専攻で様々な自然科学分野の授業を受けた結果，興味を持った陸水学の研究室に所属することとなりました。陸水学（Limnology）とは湖沼等の陸域に存在する水に関する総合科学のことをいいます。そこで参画した，CERの中西正己先生（現・京都大学名誉教授，総合地球環境学研究所名誉教授，「関西大学環境地理学」前々任者）の率いる琵琶湖総合観測が非常に面白かったため，もう少しこの世界を味わいたいと京都大学大学院に進学することとなりました。大学院でも引き続き中西先生の研究チームに参画させていただきました。物理・化学・生物分野の研究者が一堂に会して寝食を共にし，日中は観測・サンプリング・サンプル処理，その後は夜半まで研究のことその他のこと，尽きることのない談義で，大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

大学に入るまでは陸水学という言葉さえ知らなかった私でしたが，様々な方からのご指導の下，少し時間はかかったものの，湖沼の物質循環に及ぼす生物群集の役割に関する研究で無事博士の学位を取得することが出来ました。学位取得後，ポスドクとしてCERで琵琶湖の酸素環境の研究を行い，その後ポスドクとして他機関に移る予定になっていましたが，直前で少しゴタゴタがあったため，ちょうどそのタイミングで公募が出ていた，IRMSの管理を含む研究技術職としてCERに居残ることになりました。実は私にはIRMSの使用経験はなかったのですが，他の分析技術や実験室管理経験を買われて採用していただけることになりました。幸いこの職務は自分の性分にも合っており，所属機関が変わった今でも，同じような仕事を続けております。

現職場である総合地球環境学研究所では，地球化学，水文学，生態学，地質学，鉱物学，人類学，食品科学（産地判別），科学捜査など，細分化された専門的学問領域で活用されている同位体手法を，幅広い環境学の研究に利用し，単なる機械の共同利用ではなく，研究方法や研究成果の活用方法も共有する同位体環境学共同研究事業を展開しておりますが，私はこれに関わる一部の分析装置の管理等を担当しております。フィールドに行くことがめっきりなくなってしまい，それ自体はさみしく思いますが，一方で，担当している装置を利用される方の相談にのる中で，様々な分野に関われることは非常に興味深いことです。かつて興味があった考古学とも繋がりが出来ました。

かつて研究に携わることを夢に見て，そして現在研究に携わっている自分がいます。そのあり方はかつて思い描いた姿とは異なりますが，どこかつながりを持ったものでもあります。岐路に立ったとき，必ずしも自分の進みたい道を選べたわけではありません。つながっていたはずの道が遮断され，別の道を行かざるを得なかったこともあります。苦しい，つらいと思うこともありましたが，しかし得られたものも大きかったと思います。この先にどんな道が待っているのかとても楽しみです。

（よしみず　ちかげ：総合地球環境学研究所研究員，本学非常勤講師）

千里地理通信　第82号
2020年3月20日　発行　　（550部）
関西大学地理学研究会
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
関西大学文学部地理学・地域環境学教室内
編集担当：松井幸一
tel：06-6368-1121（内線4890：大学院生室）
e-mail：kandaichiri@gmail.com
url：http：//www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/
郵便振替：大阪00970-4-81149